

【伊藤総領事メッセージ 2019年5月】

5月1日、皇太子殿下が新しい天皇陛下として御即位され、令和の御代が始まりました。令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味がこめられています。また、安倍総理はこの元号の決定にあたり、文化を育み、自然の美しさを愛でることができる平和な日々心からの感謝の念を抱きながら、希望に満ち溢れた新しい時代を国民の皆様と切り開いていく、という決意を表明しました。

ここ在トロント日本国総領事館においても、新天皇陛下の御即位をお祝いする記帳を受け付けます。総領事館のホームページでの御案内を参照され、来館いただければ誠に幸いです。

これまで30年間にわたり天皇としてのお勤めをなされた平成天皇は、御退位の後は上皇となられ、基本的に御公務には出席なさらないとのこと。総領事としてトロントに着任する前には式部官の一人として天皇皇后両陛下にお仕えし、国民の象徴として、常に全身全霊で御公務に取り組みされた両陛下をお近くで拝見してきた私も、心よりの感謝の意を表明したいと思います。2009年の両陛下のトロント御訪問については現在でも多くの方々が覚えており、両陛下の御厚情にまつわるエピソードや、人々を包み込む優しい笑顔への謝意は今も語り継がれています。両陛下の最後の外国御訪問となった2017年のベトナム及びタイへの御訪問に御一緒させていただいたことは、私にとって大変な栄誉と貴重な思い出となっています。

4月28日、トロント市内のハイ・パークにおいて、ジョン・トーリー市長、地元選出のアリフ・ビラニ連邦議会議員及びブティラ・カルポチェ・オンタリオ州議会議員と共に、新たな桜の植樹を行いました。これは、1959年に東京都民からトロント市民への桜の寄贈60周年記念であるとともに、新天皇の御即位を祝うためのものです。



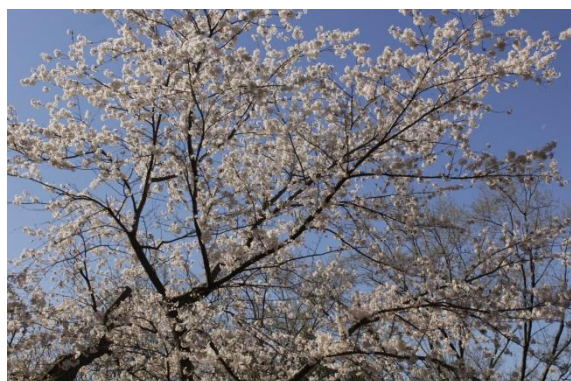
60年前の寄贈は、第二次世界大戦後にロッキー山脈の東に行くか日本に「帰国」せよと命じられ、カナダ西部から移動せざるをえなかった日系カナダ人を受け入れてくれたトロント市民に対する謝意

の表明として行われました。60年を経て、ハイ・パークは桜の名所として多くのトロント市民に愛される存在となり、また当地の日系カナダ人も社会の様々な分野で活躍し、日本文化や日本経済の影響力も、人々の生活の中に溶け込み、享受されるに至っています。この式典では、和太鼓の演奏、躍動感溢れる「よさこい」の踊りの披露、



そして野点の茶道のおもてなしも行われました。このように日本の歴史と文化が受け入れられ、楽しんでいただけることを非常にうれしく思いました。

日本と日本文化の象徴とも言える桜にちなんで、今年の春は2つのキャンペーンが行われています。一つは、カナダ日本レストラン協会(JRAC)の支援の下、大トロント圏にある8つの日本レストランにおいて、期間限定で桜にちなんだメニューを出していただく「桜ディライト・キャンペーン」です。この機会に、桜からインスピレーションを得た日本食を味わって頂きたいと思います。もうひとつは、桜を題材とした俳句をSNSに投稿して頂くというものです。俳句のイメージに合致する写真やイメージがあれば、ぜひ一緒に投稿してもらい、ネット上でみなさんに楽しんでもらいたいと思います。



今年のトロントの本格的な春の到来は遅く、桜の満開も5月半ば頃になりそうです。ハイ・パークのみならず、オンタリオ州の様々な場所に植えられ、花を咲かせる桜が人々に愛されていることは、日加友好のこの上ない象徴です。これまで桜を大切に育ててくれた方々、そして日加間の関係強化のために尽力された方々の御努力に深甚なる敬意と感謝を示し、我々もまた、この友好の絆を一層強固なものにするために努力を重ねたいと思います。